

一日目 : 8/20(水) 曇り

いよいよ出発日、フェリーの受付開始が 15:00 からなので大洗まで 100 km、お昼頃には出発しようと思っていたが結局は 12:40 頃に家を出た。

出発してから色々と忘れ物に気が付く。虫除けスプレーや PET ボトルホルダー、それに冷蔵庫の中に旅の途中、食べるつもりだったブルーベリーを忘れた。帰った時にどうなっているやら。

途中、色々と買い物をしていく。カインズホームで耳栓、ペットボトルホルダー、単眼鏡、窓拭きスプレーを、ベイシアで食料、マツモトキヨシで虫除けと眠気覚ましのドロップ。

大洗のフェリーターミナルには 16:00 前に着いた。受付に行こうと準備して青くなった。車検証が無い!

どうやらコピーを撮った時、そのままプリンターに忘れたらしい。

幸い、コピーの方は持っていたので、そ知らぬ顔で書類と一緒にそれを出すと難なく通った。

カヌーを積んでいることを告げると係員が確認すると言う。

今回もって行くのはシーカヤックのスカヤック 16、全長は 470 cm ほど。

車と鼻面合わすように積んで全長 5 m 以内なので問題無いはずと思いつつ、やきもき待っていると OK が出た。車を待機場所に移動した後、乗船開始の 17:30 までターミナルを散策しようとうろついていたら、17:00 から乗船開始するとのアナウンス。船の写真を撮って慌てて車に戻る。

乗船して荷物を持って客室デッキへ。航行中は車に戻れないので色々と持っていく。

入口で船員から乗船券の提示を求められる。聞いてなかったので少々慌ててリュックのポケットから出す。

車内に置いて来なくてよかった。

往路の客室はエコノミー。昔で言う処の二等客室だ。

フェリーの二等客室と言えばカーペット敷きの大広間で、速い者勝ちで場所取りして、仲間同士で車座になって呑ん兵衛は酒盛りを始める。といったイメージがあったが、最近は座布団程度の幅しかないが一人ずつの場所が決められていて、それぞれにマットレス、シーツ、毛布、枕が割り当ててある。

自分の場所を確認してから次はコインロッカーを確保する。浴場が近かったので脱衣所のロッカーに食料と貴重品を入れる。コイン返却式なので何度でも開閉できる。

出航までの間、船の中を探索する。甲板から港の写真を撮ったり、レストランのメニューをのぞいたり。

レストランの夕食は 18:00 からで船での食事は夕、朝、昼とも全部バイキング形式らしい。

出航した後に試しに夕食 (¥ 1600) を食べてみた。

内容は和洋中と色々あったが大半がレトルトか冷食だった。まあ船の厨房ではしょうがないか。豪華客船じゃないし。貧乏性なので色々詰め込む。味はまあまあだった。

客室に戻ると中は大体 6 割くらいの客数、私の両隣は空きなのでゆったりできそうだ。

暇つぶしにガイドブックと雑誌を持ってきたのでそれを読むか、船内をウロウロするくらいしかすることが無い。一応、ミニシアターやゲームコーナーもあるが私は興味が無いので行かなかった。

20:00 頃に風呂に入る。結構広くて洗い場も 20 箇所くらいありシャンプーやボディーソープも備えてある。サウナもあり船の設備にしては結構立派。それに船の揺れでお湯が動くのが面白い。

風呂から上がった後、本を読んだりもしたが結局、21:00 ころ早々に就寝する。

二日目：8/21(木) 曇りのち晴れ、時々小雨

6：00ころに目が覚める。船が結構揺れている。おまけに寒い。

夜中から冷えていたので冷房の効きすぎかと思っていたが気温そのものが下がっている様だ。

顔を洗ってからラウンジでTVを見ながら持ってきたパンで朝食を取る。

今回の旅には350mlのサーモマグを持ってきたがこれが結構役に立つ。給湯室でお湯をもらいティーバッグを入れればお茶代がタダだし、レストランで冷水も汲める。

昨日の夕食時、ジュースも飲み放題だったがさすがに気が引けて水しか持って来られなかった。

船内の売店に立ち寄ってみた。船内限定の記念品やおみやげが目立つ。商売上手と思いつつ、2つほど買ってしまった。

船内では売店や自販機で酒、飲料、アイスまで売っているが、食品類はおつまみや菓子しか売ってない。飯はレストランで食べるという事か。

船内では携帯電話は圏外だが甲板にでて陸側に立つとアンテナが立った。陸が近いらしい。

船が揺れて立っていると酔いそうになるので客室でゴロゴロしながら後のための体力を蓄える(?)。

結局19時間の船旅の内、食事と風呂以外の15時間位は寝るかゴロゴロしていた気がする。

苫小牧には定刻どおり13：30に到着、ただし上陸するまで30分位かかった。けっこう涼しすぎ。

キャンペーン期間中、乗船券を見せると3円/ℓ引いてくれるスタンドで給油後、市内のイオンの店に向かう。

かなり広い敷地に駐車場、ショッピングモールも併設した結構大きな店だった。

食品売り場で今日と明日の分の食料を調達、さすが鮮魚と肉類は豊富だった。

次に本屋で詳しい地図を、と思っていたが生憎と5万分の1の様な地図は無かったので道東地域のガイドブックを買う。

さて買い物すんでようやく北海道の旅のスタート。今日の宿泊地の「沙流川オートキャンプ場」に向かう。

途中、鶴川の道の駅による。

北海道も昨今の流行に乗ってか、あちこちに道の駅がある。今回の旅では情報の収集とおみやげゲットの為、出るだけ立ち寄るようにする。とは言え、ここは立派な外観の割にあまり大した物はなかった。

北海道の道を走るのはかれこれ20年以上ぶりだが相変わらず走りやすく、景色はきれいで車はスピードを出している。

普段、一般道では60km以上は出さない様にしているがここではケツを突かれそう。いつもの2割り増し位で走るがそれでも次々に抜かれていく。

沙流川のキャンプ場には17：00過ぎに到着する。

ここはオートサイトもあるが今回は安価(¥500)なフリーサイトにする。とは言っても駐車場がすぐ近くなのでほとんどオートキャンプと変わらない。テントサイトは芝生で広々していて気持ちよかった。

バイクで旅をする人も何人かいた。オートバイはテントサイトまで入れて、受付では地面にスタンドがめり込まないように板まで貸してくれるサービスぶり。北海道はライダーに優しい。

テントを立てるのは久しぶり。立て方を忘れてないか確認と共に各部のチェック。本当は家でやっておくべき事。

日が沈む前に歩いて近くのホテル「ひだか高原荘」で温泉入浴、¥500なり。結構良かった。

夕食は少し贅沢にイオンで買った握りずし。サービス品で半額だった。これって贅沢？

テントに入ってから明日の行程の確認とフェリーで取った写真を写メールで自宅に送ったりした。

夜になって夕食が済む頃になると周囲はみんなテントに入って静かになる。花火をしたり、宴会をして騒ぐ様な不届き者は全然いない。これは以後のどのキャンプ場でも同じ感じだった。

北海道のキャンパーは皆、品行方正で礼儀正しいのか、それとも旅の途中で余分なエネルギーが無いのか。

もし矢木沢倶楽部が北海道に遠征することがあればこの辺は一考する必要があるようだ。

私も習って21：00には就寝する。

三日目：8/22(金) 晴れ

4：30ころに目が覚める。朝食におにぎりとカップラーメンを食べた後、あたりを散策する。

沙流川はきれいな川でもう少し水量があったら川下り出来るのに。等と思いつつ自分みやげに川原の小石を拾う。テントを丹念に乾かしていたら出発が8：00になってしまった。

国道274号線を十勝に向かって進む。

十勝峠の山道を走っているのに相変わらず真っ直ぐでスピードの出る道が続いている。こっちはできれば周囲の景色を楽しみながらゆっくり行きたいが周りがそうさせてくれない。遅い車がいるとたちまち数珠繋ぎになる。

そして追い抜きポイントになるとバンバン抜かれる。一般乗用車だけでなくトラックやバス、はてはおばちゃんの運転する軽バンにまで抜かれる。こちら70km以上は出しているのに。

峠の展望台で写真を撮った後、十勝ヶ丘公園に向かう。ここには大きな花時計があり、きれいだったがその他は広いだけの公園。

お弁当持って遊びに来たら楽しそうだがこちらは旅の途中。ソフトクリーム食べて、近くの十勝ヶ丘展望台に上って写真を取る。結構眺めの良い穴場ポイントだった。

これからは釧路に向かってひた走る。と思ったが途中、道の駅「しらぬか恋問」に立ち寄る。

道の駅も場所によってはやる気が無いと言うか、活気の無い所があるがここは結構いけていた。

まだ、生鮮品のみやげをかうのは早いので小物と珍しいふりかけを購入。お昼も回ったので昼食を取る所を探す。

道の駅で食べれば早いが一日は贅沢をと、ガイドブックに載っていた「レストラン・オズ」を目指す。

なかなか洒落た外観と雰囲気ある内装のお店、頼んだ和食御膳(¥945)も美味しかった。

寄り道したせいで時間が押してきたので釧路市街には入らずそのまま釧路川の偵察に入る。

まず最終上陸予定地の「細岡」に行く。

釧路川は上陸ポイントが少なく、まして駅が近いのは数箇所のみ。ここはその一つ。

屈斜路湖から約78km、二日間の行程で到達できるぎりぎりくらいの所に在る。

上陸場所はカヌーポートとして整備されて車が何台も駐車できるスペースとカヌーを上げる岸があった。

実際、下ってきたらしい人が何人もいて結構にぎやかだ。

JR釧路本線の細岡駅は歩いて3分ほどの無人駅。ダイヤを見ると一日10本程しかない。そのうち使えるようなのは2、3本か。

ついでに細岡の展望台まで行ってみる。人気の展望スポットらしく沢山人がいた。釧路湿原が一望できる眺めは上々。上から見る釧路湿原はきれいだった。

次に上流の弟子屈に向かう。でも途中シラルトロ沼で記念撮影。

弟子屈町の駅名はなぜか「摩周駅」。ここが摩周湖への入口だからか。ちなみに「摩周」という町名は無い。

この駅は有人で周辺は店もありにぎわっている。けど川は両岸とも護岸され用水路のよう。

とりあえずコンビニ店の位置と駅前にタクシーがいる事を確認して次は美留和の駅に向かう。

距離的には美留和の方が少し屈斜路湖に近い。でもこちらは無人駅で駅前には何も無い。

近くの食品店で買い物が見たら、一応、電話でタクシーは呼べるそうだが、摩周駅の方が良さそうだ。

屈斜路湖の和琴半島に着いたのは16：45。無料駐車場は広くて空いていたけど「和琴半島湖畔キャンプ場」の受付がわからず探すのにグルグルしてしまった。

今夜はテントを使わず車で寝ようと思っていたが、キャンプ場の駐車スペースはいっぱいで湖畔のサイトから離れて駐車しなくてはならない。あまり降ろしたカヌーから離れたくないのでバンガローを借りることにした。

通常¥4500のところ一人なので¥3000にしてくれた。バンガローは一人には十分すぎる広さでおまけにファンヒーター付き。おかげで明日からの川旅の準備をゆっくりできた。ちなみに今日も少し寒い。

できればカヌーで釧路川の入口を見ておきたかったが、日も暮れかかったので近くの温泉の露天風呂に入り、飯を炊いて、ミニ七輪で肉を焼いて夕食にする。

そして明日に備えて21：30には就寝する。

四日目：8/23(土) 曇り

4：45に目が覚める。今日も肌寒い。朝食後、散策と偵察を兼ねて空荷のままカヌーを漕ぎ出す。

さすが温泉の湧き上る湖だけあって水温が温かい。27～28位か。

カヌーを漕いでいると下から泡が上がってきたり、湯気を上げている所があちこちにある。

和琴半島の先端部からも湯気が上がっていた。「オコヤツ地獄」と言われるカヌーでしかいけない温泉だ。

温泉といってもお湯が湧き出していると言うより、噴気によって湖水が温められている感じだ。

先人の作ったらしい湯船に入る。と言ってもおしりが浸かる程度。足湯ならぬ尻湯だ。

もう少しまともにお湯に入りたいので、目の前の岸で湯気の上がっている場所を目指す。

前方に丸っこい山が有り、その左側で湯気が上がり、右側に橋が見える。釧路川の入口の「眺湖橋」だ。

場所を確認できたので偵察は終り。温泉を堪能する為に湯気の上がる元に上陸することにする。

そこは無料温泉の一つ、「コタンの湯」だ。カヌーで上陸できる岸があり、駐車スペースやトイレ、売店まであり利用し易く見晴らしも開放感も抜群の温泉だ。

まだ6：30過ぎだと言うのに私以外にもお客がいた。それもカップルで。

目隠しなど無いも同然の露天風呂なのでこんな早朝に来たらしい。

彼らはこの後も付近の温泉をハシゴするらしい。私もできればそうしたいが時間が無いのでそろそろ切り上げる。

キャンプ場に戻り、カヌーに荷物を詰め込み、車を無料駐車場に移動し、バンガローの鍵を返したら出発だ。

9：00に和琴半島湖畔キャンプ場を出発。

荷物はかなり抑えたつもりだがやはりさっきより足が遅い。見るとオコヤツ地獄の上方に人影がある。和琴半島を縦断してきたのか。でも最後の斜面をどう降りようか思案しているようだった。

キャンプ場から一時間ほどかかって眺湖橋に到着。いよいよ釧路川に入る。

川の流りは結構速く、人の早足程度はある。橋から100mも進むと車の音もしない、人工物は何も無い原生林の源流部だ。

と言って大自然に浸ってばかりいられない。流りは結構あるし川中には倒木、流木ときに隠れ岩と障害物が次々と現れるのでしっかりコースを取らないと大変なことになる。

シングルのシーカヤックならどうってこと無いが、カナディアンやファルトボートでは苦勞しそうだ。

ちなみに地元の釧路川のカヌーツアーは殆どがカナディアン使用、一部インフレーターらしい。

しばらくして気が付いたがどの障害物も1ヶ所はカヌーが通れるルートが開いている。倒木を切った様な跡があるからこの川は誰かがカヌーのツーリング用に整備しているらしい。

その誰かに感謝しつつ川を下る。しばらく行くと二番目の橋「美登里橋」を過ぎる。この先に一級の瀬があると聞いていたが気が付かないで過ぎてしまった。瀬より怖いのは水の中の見えない障害物だ。

カヌー用の案内板に架かった「美留和橋」を過ぎると消波ブロックなどの人工物が現れる。気をつけないと底をすったり、座礁しかねない。というか一度、底をズリズリとやってしまった。

人工物も自然物も川の一部、楽しまなくては。と思いつつも弟子屈の手前でブロックの堰をポーテージ、自然の瀬は気持ちよく抜けてしまうので考えてしまう。

弟子屈町の手前にある「摩周大橋」の左側にはカヌーポートがあり上陸できる。道路にあがると右に入浴可のペンションと弁当屋、左に摩周の道の駅がある。もっともこの道の駅は観光案内所とトイレしかない。

ここからコンビニまで行くと往復30分以上かかるのでもう少し進むことにする。

弟子屈の町では川は高い壁に囲まれた底の浅い水路になるが、何力所か上陸できる登り口がある。これもカヌーの為らしい。

とは言え、流れが結構速いので付けるのは一苦勞だ。手すりと鎖が張ってあるのでそこに掴まって上陸、カヌーは上げられないので流されないように何本ものロープを掛ける。

上陸後、街中を歩く為に身支度をやる。漕いでいる時は頭にヘルメット、半袖、半ズボンタイプの薄手のウェットにシーカヤック用のジャケットを着ていた。上はともかく、下は恥ずかしいので防水バックからズボンを出してそのままはく。メットは帽子に代えて、靴はパドリング用のシューズのままで行く。

前日に場所は確認したはずなのに、車とカヌーからでは感覚が違い迷ってしまった。人に尋ねてようやく発見。食料だけなら持ってきた物でも足りたが、あまりに涼しいので夜の寒さ対策の為、カイロが欲しかったのだ。しかしセブンイレブンには中華まんはあってもカイロは売ってなかった。まだ8月なのだから当然か。食料を少し買い足して店の周囲を見るとすぐ近くに薬局を発見。そこでミニタイプ10個入りの使い捨てカイロを購入。

船に戻るともう4時半をまわっている。結局買い物に30分以上かかってしまった。

早速、背中に2個カイロを張り出発。弟子屈の町を出るといきなり大きな瀬が次々と現れるが真っ直ぐで障害物も無いのでずいぶん濡れたが問題なし。しばらく平穏な流れが続く。

岸を見るとキャンプに適した場所がいくつもある。二段のなった土手の下段に芝生の様な下草が生えいかにも「ここにテントを張ってください。」と言っているようだ。

しかし今日の目標は磯分内の「瀬文平橋」。先を急ぐ。

この辺から川は趣を変え、瀬の連続したスリリングな流れになる。大抵は1~2級の瀬だが間隔が短く辺りも暗くなってきて気を使う。そして事件は起こった。

前方、流れが3つに分かれている。

右は障害物があって通行不能、左は浅くて底をすりそう。真ん中は小さな落ち込みになっているが水量もありいけそう。と思いパウを向ける。さっきポーテージしたせいで面倒くさかったのかもしれない。

近づいて気が付いたが落ち込みの途中で水面上まで出た岩がゴロゴロして障害物になっている。まともに突っ込んだら大変なことになりそう。

マズイ！と思って左に向かうが流れが速く間に合わない。横に向いたまま落ち込みに向かう。

ガツン！とカヌーは前後共に岩に引っ掛かり流れに横向いて止った。流れに押されて艇上からは動かない。

ここでヘマをしてしまった。急いで艇を降りようと上流側に傾けてスプレースカートを取ってしまったのだ。もちろん下流側に傾けたら落ち込みを転げ落ちたかもしれないが。

たちまちコクピットから水が入り、艇から降りた時はすっかり水船になり、いいかげんに積んでいたヘルメットが流されてしまった。こうなるともう艇の重さと流れの水圧でビクともしない。

艇の向きを変えようと押しても引いてもダメ。これ以上水が入らないよう艇の傾きを変えようとしてもダメ。

腰まである流れの中であれこれしていると流されそうになるが、ここで流されたらもうカヌーにたどり着けないと思い必死に踏ん張る。

10分ほど色々試しているとスターンの方が上に持ち上がることが解った。このまま岩を越えれば下に向く。ただし満水状態のカヌーを持ち上げれば真ん中から折れ曲がる危険もある。だが他に方法も無い。

流れの中、踏ん張ってカヌーを持ち上げる。じりじりとスターン側は岩の上にかかるがその分パウは流れの中で流圧を受ける。カヌーが壊れたらもう最後。

なんとか岩を越え、スターンが下を向く。岩にぶつけないように慎重に下の淀みに誘導して浮かべ私も水に入る。

もう重くて自力で動かすなんて不可能、だけど手を離したらさっきのヘルメットの様になってしまうかも。

足が川底に着くようになってようやく岸にたどり着く。とにかく水を出さなきゃならない。

水を抜きながら艇のチェックをする。船体そのものには大きなダメージはないが前後の隔壁が破損していた。

船体に力が掛かってゆがんだせいか、前は割れて穴が開き、後ろはずれて隙間が出来ていた。当然中は水びだし。

荷のチェックもしたいが日も暮れてきたし、水の中では気にならなかったが寒くて震えてきた。

早急にキャンプ地を探さなくては！贅沢は言わないがしっかりした地面とたき木だけは必要だ。

10分ほども下っていたらプカプカ浮いているヘルメットを発見！慎重に回収する。

そしてようやく適地を見つける。石がゴロゴロした川原で水面からあまり高さは無いが大きな流木がころがって枝も多少ついている。

カヌーを岸に着け荷物を全部岸に上げる。濡れてまずい物は防水のスタッフバッグに入れ口を縛っておいたが水没したせいか中も濡れていた。沈した方がまだ良かった。

それに左足にたくさんスリキズがあった。出血する程のものは無いが医薬品は絆創膏くらいしか無い。

テントとマットはタオルで拭く程度で済んだが、寝袋とシュラフシーツは部分的に水が滴るほど濡れている。火を起こそうとして青くなった。ライターやバーナーを入れたコンテナボックスも水没していた。当然ライターも濡れて火がつかない。シングルバーナーは着火装置がないし、ミニランタンは自働着火だが火がつかない。他にライターが無いかわたて探す。着替えを入れていた防水バッグに入っていた財布用のウエストバッグにもう一つライターがあった。こちらもちっと湿っていたが火は着いたのでようやく一安心。

ついでに服も長袖、長ズボンのウェットに着替える。明かりは電池式の物を総動員。といっても3つだけ。寝袋を乾かす為に三脚を作りたかったが適当な木が無い。しかたないので予備と合わせてパドルで三脚を作る。アルミはともかくカーボンやプラスチック部が焚火にさらされて大丈夫か気になったがしかたない。焚火で寝袋を乾かしながら食料のチェックがてら食事をする。

コンビニで買ったおにぎりは仕方ないにしても封を開けていないパンまで濡れるのはどうゆう訳か。ついでに未開封の蚊取り線香も濡れていた。今回の旅はちょっと涼し過ぎだけど、そのおかげで虫に悩まされずにすんだ。どうせ川の水も飲んじゃったから、パンもおにぎりもかまわず食べる。あったかい物も欲しかったのでレトルトの御飯とカレーも温めて食べる。

腹が膨れたら眠くなってきたが、せめて寝袋とシーツは乾かさないと眠れない。ようやく使えるほどに乾かしてテントに入ったのは23:00頃だった。

寝る時には体にカイロをあちこち張って寝た。

五日目：8/24（日） くもり一時雨

4：45に目が覚める。カイロのおかげか寒くは無かったが頭が痛い。川に浸かって風邪をひいたか。

昨夜、携帯電話のナビでここが南弟子屈の近くということが解った。予定していた瀬文平橋はまだ10kmも先だ。

朝食を取り荷物をまとめる。空は今にも降り出しそうな曇り空。でも気温は昨日ほど低くない。

急いで撤収したいが頭痛のせいで集中できず。のろのろと仕度し、出発したのは結局7：00だった。

川は少し瀬があるが問題なし。ただ昨日を教訓として一ヶ所、ブロックの堰をポーテージする。

2時間ほど漕いでようやく瀬文平橋に到着。もし一日でここまで来るのなら早朝に屈斜路湖を出発して、一日中漕ぎ続けないと辿り着けないと思った。当初の見通しが甘かった。

この辺りまで来ると川は穏やかになり、再び流木や岸からの倒木が目立ってくる。

川岸には牧場があるのか馬や牛の姿を見かける。一度、遠目だったけど鹿も見かけた。

鳥の姿も多くなった。丹頂ツルやオジロ鷺といった大物やカワセミの様に小さい鳥、その他に名も知らない(と言うか殆ど判らない)多くの鳥がいた。カラスまでいた。

「五十石橋」を過ぎると岸は人工物が無くなり濃い緑の壁になる。長い直線部分を過ぎると川は蛇行し始め湿原らしくなる。頭痛は治まってきたが、今度は雨がポツリ、ポツリときた。以後も振ったりやんだりした。

よく釧路川のツーリングを書いたものでは、川下りの最中に護岸された岸やコンクリートのブロックを見るとしらけたり、がっかりすると書かれている事が多いが、私はむしろホッとすることが多かった。

一人で大自然の真只中を旅していれば不安にもなるし。昨日の様な事があれば自信も無くなる。

そんな時、川に人工の物があると人の気配が感じられ安心する。それにカヌーの上で聞く列車のガタン、ゴトンという音は何とも風情があって心地いい。

屈斜路湖から下り始めて今まで、川下りをしているカヌーは他にいなかったが、ようやく1艇であった。

カナディアンカヌーに3人で乗っている。どうやら初老の夫婦とガイドさんらしい。

彼らは「二股」まで行くと言う。二股というのは釧路川と「塘路湖」からの水路が合流するところだ。

時間もお昼に近いし細岡まで下ったら列車の時刻に間に合わないかも知れない。塘路湖までは水路を遡って行けるとガイドさんは言うのでそちらを最終上陸地点にする。

実を言うと、この頃にはもうかなりダレて川下りに飽きてきた。漕ぎながらこんな詩を作ってみた。

～川下り 5キロじゃ全然物足りず 10キロまだまだ楽しい内 15でそろそろ御満悦 20でもう腹一杯
30下ればダレて来て 50以上はもう修行～

もう一句

～湿原も 中に入れば ただの藪～

カヌーイストの北の聖地、釧路川に夢やあこがれを抱いている方にはすみません。

カナディアンを追い越し先を急ぐ。川下りで自分の位置を確認するのは橋が頼りだが最終目標の二本松橋がなかなか現れない。

焦れて来たので再び携帯電話のナビで位置確認をしてみると塘路湖の近くに居る事が判った。

すぐに橋が見え、通り過ぎるが携帯の小さな地図では二股なんて地名も水路も載っていないのでどこが分岐か解からない。

見落とさない様にゆっくり進み、ようやくそれらしい所に出る。上陸ポイントと上流からは見えなかった水路がある。

果たしてこの水路でいいのかなと迷っていると、先程のカナディアンが到着したのでガイドさんに聞いてみると、OKだとの事で、水路に侵入する。

後で知ったがこの水路は「アレキナイ川」と言う自然の川らしい。多少流れているが遡れないことは無い。

途中、川下りに出るカナディアンのグループとすれ違う。釧路川のカヌーツアーはどうやら部分的に楽しむのが主流らしい。

「塘路橋」をくぐって塘路湖へ、湖には沢山の水草が繁殖して大分水面を覆っているが部分的に水路みたいにな

っている。どうやらカヌーの通行のため一部刈り取っているらしい。

前方からまたカナディアンが来るのでキャンプ場に位置を聞いてそこを目指す。岸に何艘ものカヌーがあったのですぐわかった。

上陸して上の建物でキャンプの受付をする。一泊¥360、安い。

テントを張るのは少し離れた場所なので再びカヌーに乗って移動する。

上陸してテントサイトに上がるとき妙な物を見つけた。アクリル製の郵便受けの様な物に紙が入っている。

紙は「入川用紙」と「釧路川保全と利用のカヌーガイドライン」と言うパンフレットだった。

パンフは詳しい地図入りで上陸地点など川下りに必要な情報や注意事項、ルールを書いてあった。先に欲しかった。

入川用紙はツアーの目的地、日にち、名前など書いて残す物で、まるで登山するみたいだと思ったが、ここではカヌーの安全に気を使っているのだと感心した。同時に何も知らず単身ここまで下ってきた自分の無鉄砲さに身震いした。

取り敢えず、テントを設置して荷を運ぶ。14:32に「塘路駅」に列車が来るので早目に着替えて駅に向かう。

塘路駅は待合室が小さな喫茶店のようになっていて、客がマスターに観光地の事を色々聞いていた。

時間があつたのでアイスクリーム(¥280)と町の地図(¥10)を買って時間をつぶす。

列車は定刻より3~4分も早く来た。釧路本線は基本的に無人駅ばかりだからバスの様に乗車時に搭乗券を取って、降りる時に清算するシステムだ。

今日は日曜のせいか結構お客がいて、やっと席が見つかった。もっとも普段どの程度か知らないけど。

摩周の駅までは1時間ほど。大半をウトウトして過ごす。摩周駅は乗降客が多いせいか列車を降りてからの清算だった。

駅前にタクシーが居る事を期待していたが何も無い。そこで駅構内にあった観光案内に聞いてみると呼べば10分で来ると言うので呼んでもらう。色々聞いてみると和琴半島までバスもあるらしいが、1時間以上待つ様なので今回はやめておく。

タクシーが来たので乗り込んで和琴半島に向かう。運転手さんと色々話したがここ一兩日の寒さは北海道でも異常だとの事。旭川では1 まで下がったらしい。

和琴半島の駐車場に着くと車は無事に残っていた。ここまでタクシー代¥4850なり。

塘路湖に戻る前におみやげ屋を覗く。ついでに野田知佑も食べたという「いもだんご」を食べる。うまかった。

戻る途中、摩周の上陸ポイントで見た弁当屋によって弁当を調達して夕飯にする。

キャンプ場に戻って車を駐車場に入れる。駐車場は広くてテントサイトの道路を挟んで向かい側にあるが、殆ど車の通らない所なので問題は無い。

キャンプ場には他に2,3組のバイク旅の人しかいない。

カヌーに積んでいた荷物を整理する。まだ乾かす物があるのでテントの中に防虫ロウソクを灯して乾燥室がわりにする。

キャンプ場備え付けのテーブルとイスで夕食を取り、車の中で横になる。

やっと落ち着いて左足の治療をする。擦り傷程度だが悪い菌でも入ったら大変だ。いやもう遅いか。

とにかく消毒して薬を塗っておく。

疲れていたのかそのまますぐに寝てしまった。

六日目：8/25（月） くもり時々小雨

6：00に目が覚める。左足がかゆい。適当に残っていたパンやお菓子で朝食をすませて撤収に入る。

テントの中の物はかなり乾いていたし、防虫口ウソクの匂いが移っていた。虫除けになるかな。

炊事場にホースがあったのでそれでカヌーを洗わせてもらう。

昨日は気がつかなかったが船体に大きな傷が2つあった。1つは繊維が見える程の傷だ。応急修理しようとテープを探したがどこかに紛れ込んで見つからない。とりあえず今は諦めてカヌーを車に積み込む。

撤収中に駐車場にカナディアンカヌーを積んだ車が何台か来て、カヌーを湖の方へ降ろしている。どうやらここは釧路湿原ツアーの出発点になっているらしい。

地元のカヤッカーらしき人と少し話をする。これから知床岬に向かうと言うと、厚岸町の「大黒島」ではアザラシが、霧多布岬ではイルカや鯨、時にはラッコまで見られると言う。

日本にラッコがいるのか疑問だったが食指をそそられる。カヌーを出す余裕は無いが場所位は見てみようと、9：00にキャンプ場を出発してまず厚岸に向かう。それから納沙布岬、知床の羅臼、ウトロへと行く予定だ。

朝食をちゃんと食べてないので腹がすいた。10：00に道の駅「厚岸グルメパーク」に到着。名前からして期待していたがレストランの営業は11：00からと言われてがっかり。しかたないので開いていたみやげ物屋を物色する。めずらしく根昆布が売っていたのでゲットする。

もう一ヶ所、駅前の「かきめし弁当」がうまいとガイドブックに書いてあるのでそちらもゲット。¥950なり。

ただしこれは夕食用。昼飯時まで待てないので「厚岸海産」でお勧めという「かきラーメン(¥800)」をいただく。大ぶりのカキが5個も入って美味かったがラーメン自体は薄味の普通だった。

どこか大黒島が見える所は無いかと道道123号線を進む。近くに展望台があるはずと探す、辿り着いたのは大分過ぎた「浜岬」の展望台だった。

ここからでは大黒島は見えない。でも景色はとてもよかった。

引き返すほど時間も無いので先に進む。次に「琵琶瀬展望台」から「霧多布湿原」を望む。こちらも絶景。

そろそろガスが少なくなったので、国道44号線に出た所でスタンドを探す。北海道でのガソリンの相場は大体¥178~180/ℓ、セルフでも¥176位でセコイ所は小さく小数点で.8とか付いている。

根室市に入ったところで給油する。苫小牧からここまで621.6km、31.8ℓで¥5692なり。

納沙布岬に向かう前に道の駅「スワン44ねむろ」に立ち寄る。

ここには水産加工品を扱う店もあったのでここで実家へのみやげを選んで宅急便で送ることにする。

花咲ガニやスモークサーモンや蛸の足等、色々選んで¥8000ほど。ついでに生キャラメルも入れといた。

根室市街を抜けて納沙布岬に向かう。途中は牧場が多くて牛や馬が沢山放牧されていた。大きな風車もあった。

北海道はただ車で走っても絵になる場所が沢山あるので大変だ。写真を撮るのに忙しい。

さすがに観光地だけあって納沙布岬には結構人が居た。やたら記念碑やモニュメントが目立つがこちらは政治的なものに興味は無いので記念撮影をしてみやげ物屋をのぞく。

このころ手持ちの現金がかなり少なくなっていたので大した物が無ければ買わないつもりだったが、サービス品の昆布3束で¥1000を見て思わず買ってしまった。ホント易かった。

羅臼に行く前に根室市街のスーパーで食料を調達する。新名物の「さんまロール寿司」とか無いかと探したが無いのでパンや弁当、コロッケを買って今日、明日の食料とする。

根室で大分時間をくったので羅臼に直行する。途中、見所は色々あったが残念。

羅臼に着いた時には18：00を回っていたので道の駅の売店はもう閉まっていた。しかたないのでトイレとパンフ収集のみ行う。

知床横断道路をウトロへ向かって走り出した時にはもう日が暮れてしまった。北海道の道はどこも真直ぐばかりだけどここは峠道、急カーブが続く。おまけに知床峠にかかるころ霧が出始め10m先しか見えない。さらに時々道路にエゾシカが出てきているのであぶない。時速30km以下でゆっくりと進む。

霧が晴れ、横断道路を抜けて、ウトロのキャンプ場「しれとこ自然村」に着いたのは19：00だった。

受付に2泊する料金を払い、テントを張って、かきめし弁当で夕食をとる。21：30には寝てしまった。

七日目：8/26（火） 晴れ うす曇り

5：00 何やら馬が駆ける様な音で目が覚める。テントから出てみると鹿がいた。

立派な角のオスが一頭、雌と子供が4～5頭の群れだった。テントサイトの草を食べている。

道路を走っている時も時々見かけたが、こんなに間近は初めて。近寄ると逃げるがたいして人を怖がっていない。人が切り開いた道路やキャンプ場は彼らの良いエサ場なのだろうか。

こちら朝食と取り、カヌーの準備をする。やっとDUCKテープを見つけて艇の応急修理をし、このキャンプ場の海岸サイトから出艇しようと考えていたので、受付が開く6：00を待って話に行く。

現在、海岸サイトは工事中で駐車はできないがカヌーを出すのはOK。海浜使用料として¥500との事。

カヌーを出すだけで¥500は随分取ると思ったが、他にはカヌーを出す所は無いとの話なので払った。

出発する前に名前と行先と連絡先を紙に書き、そして戻ったら連絡を入れるように言われた。ここでも万一の場合の事を考慮しているのだなと感じた。

海岸へ降ると工事車両があって車は途中までしか行けない。そこからは自力で海辺までカヌーを持っていく。

海岸には何艘かのシーカヤックとシットオンが置いてあった。ここでもカヌーツアーをやっているのかな。

車を「知床さいはて市場」の隅っこに置いて、7：00に出発する。

天気は晴れ、風も穏やかで波も無い。ただし水は冷たい。20位だろうか。沈したら大変そうだ。

海は凪いでいるが、漁をしている漁船や動き出した観光船もあるのでそっちの方が危険そうだ。

今回は日帰りツーリングで目的地は「カムイワッカの滝」。ただし4時間漕いでも着かなければ引き返す。と一応決めている。なにしろ手元にあるのはガイドブックから切り取った地図だけなので距離がよく解からない。

海岸は殆ど断崖絶壁で上陸できるのはその間隙のわずかな場所しかない。そしてその断崖には沢山の鳥がいた。

大半はウミウでこちらが近づくとも嫌々そうに飛んで逃げる。次に多いのはカモメでこちらは図太くなかなか逃げない。あとアマツバメの様な鳥が飛んでいた。エトピリカでも居ないかと探したが見当たらなかった。

それと断崖には所々に大きな穴が開いていた。最初は海蝕洞窟と思っていたが海からやけに高い場所に在る物もある。疑問に思っていたら後で観光船がスピーカーで解説してくれた。

これらの洞窟は冬にここに押し寄せた流氷が開けているそうだ。さすが北海道、知床半島なればこそその光景。

最初の景勝地「フレベの滝」には20分くらいで着いた。乙女の涙を意味するだけあって綺麗な滝だった。

このペースなら楽勝と思っていたが、そうは甘くなかった

小さな岬をパスして少し進んだらいきなり風が強くなった。右斜め前方からの風、それも漕いでいられないほど強い。バランスを崩さない様に何とか踏ん張る。ここで沈しても上陸場所は無い。この強風の中ではセルフレスキューできないかもしれない。何より下手すれば冷たい海で体力無くして死ぬ事もありうる。

でも踏ん張ってばかりでは埒が明かない。悪い事に観光船の起こす波もやって来て艇を揺らす。前進しないと危険だ。左右ちょっとずつ漕ぎながら進む。前方の岸壁に近寄れば風は弱そうだ。

果たして岸壁に近づくとも風は嘘のように静かになった。でも嘘でない証拠に後ろの水面は風でざわついている。

ウミウが迷惑そうに飛び立って行く。鳥が岸壁に多いのは風を避けているのかなと、ふと思った。

まだ心臓がバクバクしている。またも当初の見通しが甘かったか。これからについて再検討してみた。

単独行なのだから無理は絶対できない。もし何かあってもここは携帯の圏外、道路は「カムイワッカ湯の滝」までであるがそこに辿り着くには断崖絶壁をよじ登り、熊のいる原生林をかき分けて行かなければならない。そんなのは不可能だ。

装備は昼飯用に持ってきたパンと飲料しかない。万一の場合は漁船か観光船に助けを求める方が現実的だがそんなことにはなりたくない。

引き返す事も考えたがスタートして30分でリタイヤではあまりに情けない。そこでルートはなるべく岸よりにして風を避けていく事にし、行程を3時間で切り上げ、又は無理と思ったら即時引き返すと決める。

あまり岸に寄って海鳥を驚かしたくはなかったし、上から爆撃を喰らうかもしれないがしかたがない。

それに岸近くでは定置網が多く設置されていて、全部は避けられないので上を越えて行かなければならない。

結構面倒だがおかげでさっきの様な強風には遭わなくなり、やがて風はやんでしまった。それに色々面白い光

景にも出会うことができた。

川と違って初めての海岸でいいかげんな地図しかない自分の位置が解らない。携帯のナビもここでは使えない。すると意外な物が場所を教えてくれた。観光船だ。

大きな観光船は沖を真直ぐ行くだけだが、中小の観光船は名所があると海岸近くまで寄ってスピーカーで解説してくれる。そして見物がすむと漁具を避ける為沖に出るので、動きを見れば名所の位置、解説を聞いて名前が解る。そうすれば観光地図でも大体の場所がわかった。

名所と言っても岩に適当に名前を付けているだけの様な気もしたが、こちらには好都合だった。

時々、トイレタイムで上陸したが、陸側は熊が居ないかの確認、海側は観光船が来ないかの確認で気を使った。そしていよいよカムイワッカの滝に近づいた。この滝は遠くからでも見えるので助かる。

滝の周囲の海は入浴剤を入れたように色が変わっていた。そして滝つぼの周囲には石垣や柵のような物が見える。ここまで2時間半掛かって時刻は9:30。上陸しようと近づくと観光船がやってきたので遠慮してしばらく脇に避けることにする。

その間にここまで来た証に岬の方の写真を撮った。すると沖を3艇のカヌーがウトロの方へ過ぎていった。

ブカブカと漂っていると観光船がきていろいろと解説をしてくれた。

この滝には温泉の成分が含まれて色が変わって見える事。中でも硫黄が多くて、昔は滝壺の周りに石垣を築いて硫黄を採取していた事。労働が厳しくて逃げ出す人が何人もいた事等、ここから逃げてどこに行ったのだろう。

観光船が去った後、上陸して記念撮影をする。石垣跡にも登ってみたが確かに人手だけでこれを作るのは大変だっただろう。滝の水はすくってみたが冷たくて、匂いも色も無かった。

まだ早い昼食、いやランチか。にしようと思ったがここでは観光船が来て落ち着かないので場所を移動する。少し戻った浜でパンを食べる。目的地に達したので後は無事に戻るだけ。天気も良く風も無いので楽勝！と、この時は思っていた。

知床の浜は岩だらけだったり、砂浜だったりバラエティーに富んでいるがここは見事なくらい丸石の浜だった。大小さまざまな丸っこい石がある。川は無いのでオホーツクの波に磨かれたか。あまりに見事なので小石を2、3個拾った。

戻る途中、先程の3艇のカヌーに追いつく。ファルトの2人艇が2艇と一人艇、羅臼から3泊してきたと言う。家族とガイドのグループの様だった。それにしても知床半島の先端部は上陸禁止なのにどこに泊まったのだろう。等という野暮なことは聞かないでこちらは先に行く。

帰路も3分の2も来たところで前方に不吉な物が見える。水煙だ！

それも波が風に巻き上げられて起きるような水煙。慎重に前進すると前方の水面がさざ波立っている

往路でもあった強風現象。ようやくとその仕組みが解かってきた。

山に向かって開けている谷間に知床山脈からの風が吹き降ろしているのだ。どうも山に掛かった雲の動きが早いのが気にはなっていたのだが。

風は音を立てるほど強く吹いている。なるべく避ける様に進むがそうしてばかりもいけない。

タイミングを見計らって風の中に飛び出す。沈したらあっという間に沖に持って行かれる。

陸から吹いてくる風に向かって漕ぐが全然進まない。大きく漕ぐとバランスを崩しそうになるのでチョビ漕ぎだ。風に向かって若干角度を付け斜めに進む。気を抜いたらあおられる。悪戦苦闘の末、ようやく無風地帯に着く。一息つくが休んでばかりも居られない。往路で最初にあった難所はまだこの先にある。後方のファルト組が気になるが今は姿も見えない。風に飛ばされない様に帽子はしまって代わりに手ぬぐいを頭に巻いて漕ぎ出す。

思い切り沖に出たら風は弱いのかな。等とも考えるが、結構船が通るので目印を付けてないと危険そうだ。

そしてその難所に来た。往路の時は風で気がつかなかったが、ここは男の涙とも言われる「湯の華の滝」だった。

ここも風がビュービュー音を立てて吹いている。風が来ないギリギリのポイントでタイミングを計る。

するとそこに観光船がやって来てお客相手に解説を始めた。こちらは邪魔にならないように待機する。

乗客の何人かはこちらに向かって手を振り、写真を撮っていた。こちら手やパドルを振り返すが、しまった。頭には手ぬぐいを巻いていた。何とも格好悪い姿を写真に撮られたかもしれない。

観光船が去った後、風が弱まるタイミングを見て飛び出す。強風にあおられるがこの頃にはもう随分慣れてきたのでこの難所も無事にクリアできた。

フレベの滝を過ぎればもう少し。最後の岬を回ってやっとウトロの町が見えてきた。上陸したのは13:00頃。全行程約6時間のツーリングとなった。さっそくキャンプ場に無事に生還したことを携帯で連絡した。

浜にカヌーを上げ、車を取りに行く途中さっきのファルト組が見えた。結構ベテランなのかもしれない。

知床さいはて市場はけっこうにぎわっていて、駐車場には大型バスが何台も止まっていた。私の車はというと周りを車で囲まれ、無断駐車禁止の紙が張られていた。なんとか隙間から車は出せたが、市場の方ごめんなさい。

車を浜への道に入れ、カヌーを積み込んでいると大型のバンに乗ったカヌーイスト姿の一団がやってきた。これからカムイワッカの滝まで行くという。今から出て日没までに帰って来られるか気になったが、海の状況を聞かれたので風の事を話しておいた。どうやら知床でもカヌーツアーをやっている所があるらしい。

カヌーを積み込み、無断駐車で迷惑をかけたのでさいはて市場に寄ってみる。生鮮食品が豊富だがあまり安い感じではなかった。普段、縁のない高級食材だから相場がよく解らないのかもしれないが。

みやげ物は代わり映えしないので、食堂に行って鮭親子丼を食べる。¥1300で海鮮丼の中で一番安いがサーモンとイクラが絶妙に美味かった。ただしこれで所持金は¥3000位になってしまった。

潮落としに風呂に入りたいがお金が無いので無料の温泉を目指す。途中、知床自然センターで情報の収集とみやげ物を見るが所持金¥3000では手が出ない。あきらめて温泉に向かう。

「岩尾別温泉」の露天風呂は「ホテル地の涯」の駐車場から歩く幾つかの湯が点在する秘湯だと聞いていた。

行く途中の道路でキタキツネが出てきたりして秘湯のムードは高まるが、ホテルは結構立派なもので、露天風呂も駐車場から30m位で着いた。

最初の「三段の湯」には人が居たので先に奥の「滝見の湯」に行く。

ここにも先客がいた。ここから先は立ち入り禁止なので先に滝の写真に取っていたら、作業服の地元の方らしい人が3人来てこれから湯船の清掃をするという。

しかたないので三段の湯に戻る。さっきも居た男性2人が湯船の脇に裸で立っている。涼んでいるのかなと思いつつこちらも服を脱ぐ。脱衣所も何も無い所なので服は上着に包んで木の根元に置く。

考えてみれば風呂は屈斜路湖の温泉以来だな、と思いつつ湯船に足を入れて飛び上がりそうになる。

ものすごく熱い。今まで入った露天風呂はみんなヌルめだったので油断していた。さっきの人達は涼んでいたのでも熱くて入れなかったのだとやっと解った。

とは言えこちらもこのままでは引き下がれない。三段の一番下の湯に我慢してはいる。足にお湯がビリビリと噛み付いてくるようだ。熱いのはお湯の上の方だから掻き混ぜればいいが中に入るとじっとする以外何もできない。

裸になる前なら車からパドルを持ってきて掻き混ぜられたのに。

1分が限界で上がる。他の湯船も試してみると、一番上が2分程入れて、2段目は足を入れるのが精一杯だった。もしこの温泉を訪れる方がいたらぜひパドルを、それもシングルパドルを持っていったほうがいい。

露天風呂から上がってウトロに引き返す。5kmも行けば「知床五湖」だがカヌーでも裸でも入れない水に興味はない。

ウトロの町は小さいがなんとセブンイレブンがあった。それもATM付で。さっそく寄って現金を少し補充する。

お金を持つと気が大きくなる。道の駅「うとろシリエトク」に寄っておみやげを買い足し、三色ソフトを食べる。

それと周辺の海岸を散策して様子を見る。最初はここに車を置いて出艇するつもりだったが、護岸され消波ブロックが積まれた岸ばかりで無理そうだ。出艇できるとしたら漁港くらいしかない。

17:00過ぎにキャンプ場に戻る。明日はもう帰るので手持ちの食料を処理がてら夕食にする。また鹿がやって来て草を食べている。食べるのはいいいがあちこちに出す物も出していくので踏まない様に注意する。

さっきの露天風呂では体を洗えなかったので20:00に¥700払ってここの温泉に入る。結構広くて設備もしっかりしている。お湯も熱すぎない。露天風呂からはオホーツク海が一望できるそうだが夜は何も見えない。

小一時間ほどゆっくり風呂に浸かって、久しぶりにさっぱりしたまま、21:30には就寝する。

八日目：8/27（水） 晴れ後曇り、のち大雨

5：00に起床。いい天気でのんびりしたいが今日は北海道の最終日。苫小牧まで450kmの道のりを17：00までには走破しなくてはならない。

朝食を取って撤収を始める。テントを乾かしていたら時間を食って7：30に出発する。

今日は帰るだけだが、一ヶ所だけどうしても寄って行きたいところがあった。

それは網走の能取湖のサンゴ草群生地だ。

ひまわりやコスモスは関東でも見られるがサンゴ草は北海道にしかない。それも今頃から見ごろなのだから行くしかない。見所、寄り所は色々有るが時間がないので今日はここ一ヶ所に絞る。

でも道の駅にはできるだけ寄る。道の駅「はなやか小清水」に立ち寄ったが、まだ早くて店は閉まっていたのでトイレだけすませる。

国道244号線を走っていたら途中、海沿いに出て知床半島が見えた。山に雲が掛かって美しい光景だが天気が怪しくなってきた。写真を撮り先を急ぐ。

能取湖に着いたのは9：30、場所がわかりにくく少し迷ってしまった。

広い駐車場があったが居るのは年配の夫婦の車一台だけ。東京から来たらしい。お互いにカメラのシャッターを押しあう。

まだ最盛期には早いみたいだが遠目には赤い絨毯の様に見える。近づいて見るとスギナが紅葉しているみたいだ。スギナも赤くなったら人気が出るかもしれないと思ったりもした。

天候が悪化し雨が降り始めた。年配夫婦と別れ苫小牧を目指す。

最初は一般道だけ通って行くつもりだったが、雨が降るとスピードが出せなくて時間に間に合わないかもしれない。できれば乗船前にスーパーで買い物をしたかったので高速道路を使うようにカーナビの設定をし直す。

旭川紋別自動車道を通って比布から道央自動車道、日高自動車道の沼ノ端東ICを出て苫小牧までの行程。

その前に、まるせつぷの道の駅でやさい天そばを食べる。そばはいけていたが天ぷらはイマイチだった。

北海道の道を走るたび、ここには高速道路なんて必要ないと思っていたが、どうやら同意見の方が多いらしく殆ど車が走っていない。さすがに旭川や札幌の様な都市の近くでは若干交通量が増えるが渋滞なんて程遠い状態。関東のドライバーにとってはうらやましい限りだ。

それにしても北海道の方はよく飛ばす。雨が激しくなってワイパーを高速で動かしている時でも平気で100km以上出す。こっちは80kmがせいぜいだ。

雨のおかげでカーナビの外側は潮抜きできて好都合だが内側はどうしようか、でも上向きに積みなおしたら水舟になって屋根がつぶれるかな。そんなバカな事を考えながら走っているとガスが無くなってきた。

苫小牧までギリギリ位。でもここは無理せず砂川のSAに寄る。¥184/ℓもするので10ℓだけ給油する。

苫小牧に近づく頃には雨は小雨になり、市街に入ったのは15：30頃だった。

北海道初日に寄ったイオンに向かう。ここで船旅の間の食料と食品のみやげを買う。

地元の珍しい食材を求めるなら地元のスーパーは必ず覗く事。

とは言ってもクーラーボックスはあっても生鮮品は無理なのでパックされたジンギスカン用肉、その他を選ぶ。

そして船内食用には焙り鯖の寿司とおにぎり、サラダと若鶏のザンギ(北海道では唐揚げをこう呼ぶらしい)、と菓子を少し。それと珍しいチーズでも無いかと乳製品売り場を見てみた。

普通のチーズしかなかったがその代わりバターが豊富にあった。一時、スーパーからバターがまったく無くなった事が記憶に有ったので、おもわず一つカゴに入れてしまった。

最後に保冷用に氷と凍結したパック入りのジュースを買った。次は菓子屋に行く。

おみやげ屋の菓子は高いし、いつ作られたか怪しいからみやげにする御菓子はできるだけ専門店で買う様にしている。すぐ近くにあった「柳月」という店で実家用に焼き菓子を2点ほど購入する。

いよいよフェリーターミナルに向かう。港近くは大型車両が多く場所も分かりにくいので受付まで手間取った。

16：30に到着。受付で書類を出しカーナビを積んでいる事を話すとちょっと戸惑った様だが、来る時は大丈夫だったと言うとあっさりOKになってしまった。いい加減なものだ。

車を移動しターミナルビルを散策する。おみやげ屋が結構充実していて人も沢山いた。「白い恋人達」もまた販売されていてよく売れていた。

17:30に乗船。フェリーのデッキに停車したとき距離計の数字は1388.6km。北海道の旅はここで終了。

復路の客室はカジュアルルーム。昔の二等寝台、二段ベッドの大部屋だ。ベッドは結構広い。

荷物の一部をコインロッカーに入れ船内を見て回る。往路の船と構造が違ってラウンジが最上階にあって外が見渡せる。ソファやリクライニングチェアもあるので寛げそうだ。

夕飯時まではベッドでおとなしくしている。二段ベッドの上だが出入りにさほど苦労は無い。

カーテンを引いてしまえば中には明かりも電源もあるので快適に孤独になれる。各ベッドがカーテン引いて中に明かりが灯っている様子は集団引きこもりのようだった。

しばらくして夕食にしようとラウンジに上がる。でも同じ事を考える人は多いみたいで一杯だった。何とか場所を見つけイオンで買って来た寿司を食べる。次々に人が上がってくるので長居せず客室に戻る。

18:45に出航。天気が悪いせいか船が揺れている。本も持ってきたが読んだら酔いそうなので横になってウトウトする。

21:30に風呂へ行く。長旅の垢を落とすためじっくり入る。船が揺れるので湯船で寝ていると波間を漂っている様で気持ちいい。本当に寝てしまいそうになるのでサウナにも入る。本当に最近の船は設備がいい。

小一時間も風呂に入って気持ちいいまま22:30には就寝する。

九日目：8/28（木） 曇り、時々雨

6：00前に目が覚める。船は相変わらず揺れている。

給湯室でお茶を入れ、電子レンジでおにぎりを温める。本当に最近の船は設備がいい。

ラウンジに持って行って朝食にする。しばらくラウンジでTVを見たり、本を読んだりして時間を過ごす。

TVニュースでは大雨で各地に被害が出た事を報道している。天気予報も今日は雨。

ラウンジから見ていると天気はそれほど悪くない。と油断しているとたちまち雨が降り出しその度に甲板に出ているお客が慌てて船内に戻る。そんな光景を何度か見て8：30頃、売店を覗いてみる。

ちょっとおつまみ的な物を買おうとして、商売上手なお姉さんに進められておまけ付のチョコレートも買ってしまった。

昼飯時、残っていたお菓子と味噌パンを食べる。味噌パンは旅の途中の非常食として買っておいした物。確かに味噌の風味がするがあまり美味しくなかった。

外の様子を見て雨の合間にデッキに出て携帯で撮影する。これが旅の最後の写真。

14：00に大洗に到着。14：15には下船。雨は降っていない。

近くの値引きしてくれるスタンドで給油する。33.84ℓ、値引き後金額¥6188なり。

我家に戻ると無事に建っていた。でもこれから旅の後始末が大変だった。

ちなみに車検証はプリンター内に無事発見。ブルーベリーは大丈夫そうだったが結局ジャムにしてしまった。

翌日、実家に寄って旅の報告とおみやげを渡し、自分の送った海鮮品で夕食を頂いた。

やっぱり北海道の旅は最高！反省点も多かったがまた行ってみたい。そんな旅でした。

以上 by 大貫弘明